

# 地域包括ケア事業（薬局の健康情報拠点機能拡大による地域連携事業） 薬局のプラットフォーム化による多職種連携事業の推進

[亀岡市：実施期間：H26.9～H27.3]

○小林 篤史<sup>01)</sup> 岩田 庄司<sup>02)</sup> 宮里 輔<sup>02)</sup> 岩森 正光<sup>03)</sup> 中尾 美千代<sup>04)</sup>  
東 さゆり<sup>05)</sup> 松本 久<sup>06)</sup> 中山 和恵<sup>06)</sup> 神林 純二<sup>01)</sup>

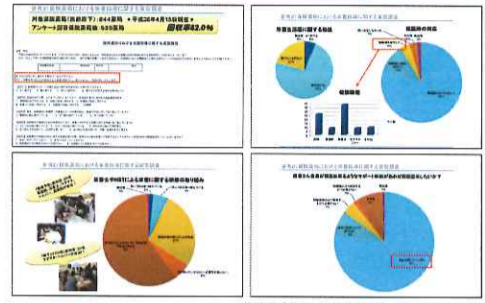
京都府薬剤師会 1), 亀岡薬剤師会 2), 亀岡歯科医師会 3), 訪問看護部会 4), 介護支援専門員部会 5), 亀岡市 6)

## はじめに

保険薬局は「かかりつけ薬局」として地域の皆さん、患者さんから多くの相談を受ける。それは、医療機関ではあるが親しみやすい空間であり比較的相談しやすい「薬剤師」という存在が居る事が一つの要因であると考えられる。しかし、昨今、京都府薬剤師会が実施した「保険薬局における栄養指導に関する実態調査」では、栄養相談で「保険薬局が積極的な栄養に関する研修に取り組んでいる」と答えた保険薬局の割合は少なく、多くの保険薬局が「研修に取り組む必要がある」と考えているが実際は取り組みもなく患者相談に応じている事が解った。また、専門職種に対する相談については「患者自身が相談出来るようなサポート体制があれば情報提供したいか」という質問に対して約80%の保険薬局が「活用したい」という意見を示し、多職種連携により患者さんに安心した情報提供を行う事を考える姿勢が見られた。

即ち、保険薬局は地域の情報拠点として情報を集約し、相談に対して的確な回答を示す為に専門的な他職種と連携し、患者対応を行う事が大切な任務であると考えられる。それは、保険薬局に集まる情報のプラットフォーム化であり連携を進めていく上で大切な要素と考える。

今回、亀岡市では薬局併設のケアカフェ等の施設を利用し、医師会、歯科医師会、訪問看護ステーション、ケアマネジャー、栄養士会等の地域の多職種と連携し、栄養・食生活、運動、飲酒、喫煙など生活習慣に関する研修会や相談会を実施する事で多職種との連携を深めプラットフォーム化を実施し、地域住民の生活習慣の改善、疾病の予防、認知症の早期発見機能を確立する事に取り組む。



## 目的

薬局利用者に対し健康や介護等に関する相談を受け、解決策の提案や行政や関係機関への連絡・紹介を行い、地域連携の窓口としての機能を構築する。栄養・食生活、飲酒、喫煙など生活習慣に関する相談について応需・対応し、地域住民の生活習慣の改善、疾病予防に資する取り組みを地域の多機関や多職種と協力して行う。

## 事業内容

### 事業の趣旨

多職種・多職種の専門性について理解し地域連携を深める。また、地域からの相談に対して保険薬局がプラットフォーム化の機能を果たす体制を構築する。

### プラットフォーム化

- 「埋上」や「高い足場」といった意味を持つ英語である。言及する対象によってプラットフォームが指し示す対象は異なる。
- 単に技術的な云々ではなく、(データ処理アルゴリズムを要とする)プラットフォームに集まったユーザーが、その上で、様々な活動を展開していく
- コミュニケーションと情報共有による、幅広く密接な医療の創造と業務革新の推進すること(=プラットフォーム)

### 実施日時

H26. 9.11	作業部会ミーティング		
H26.10.26	亀岡いきいき健康フェア アンケート調査 [n=23]	対象者：亀岡市民	
H26.10.30	第1回 情報共有研修会 14:00～16:00 [参加者:27名]	「保険薬局の相談事例より情報分析と共有体制を検討する会」	対象者：亀岡市地域の医療・介護・福祉施設に関わる職員
H26.11.13	作業部会ミーティング		
H26.12.10	第2回 情報共有研修会 事前打ち合わせ		
H26.12.17	第2回 情報共有研修会 20:00～21:30 [参加者:31名]	「栄養士と保健師の立場から考える嚥下困難者における栄養指導」	対象者：亀岡市地域の医療・介護・福祉施設に関わる職員
H27. 1.14	第3回 情報共有研修会 事前打ち合わせ		
H27. 1.21	第3回 情報共有研修会 20:00～21:30 [参加者:30名]	「歯科衛生士と薬剤師の立場から考える口腔ケアにおける乾燥の原因と対策」	対象者：亀岡市地域の医療・介護・福祉施設に関わる職員

## 具体的な内容

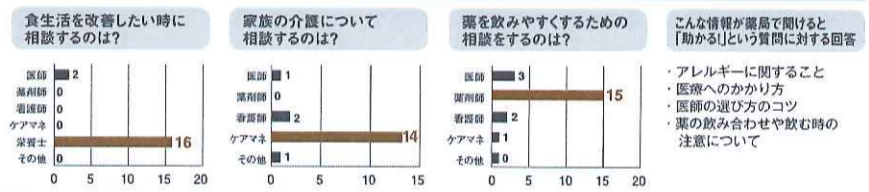
### 亀岡いきいき健康フェア アンケート調査

目的：普段の生活の中で疑問点についてどんな職種に相談するのかを把握し多職種への連携へと繋げる。

対象者：亀岡市民  
回答数：(男10名、女13名)(20代1名、30～40代13名、50～60代5名、70代以上4名) / 合計23名



■実際のアンケート用紙



## ポイント

### 情報共有研修会 (打ち合わせ)

連携を深める為に下記の点について理解する事を目的とし講義を依頼する。

- その職種の専門性とは何か?
- 多職種連携の中で専門性を活かした役割は?
- 他の職種にしてもらいたくない事、相談するときの窓口。



第2回打ち合わせ(保健師・栄養士) 第3回打ち合わせ(歯科栄養士・薬剤師)

## 第1回 情報共有研修会 保険薬局の相談事例より情報分析と共有体制を検討する会

出席者 医師1名、歯科医師1名、看護師4名、管理栄養士1名、社会福祉士1名、ケアマネジャー4名、薬剤師8名、看護師3名、行政(亀岡市役所高齢福祉課)2名、京都府薬剤師会2名 / 合計27名

### 【目的】

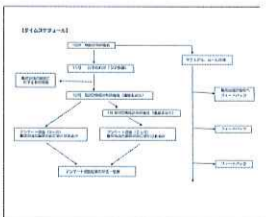
保険薬局の相談事例より各職種が関わるケースの対応方法を分析し行動変容について分析する。分析した内容を今後の情報共有研修会として多職種連携に繋げる。また、必要時は相談対応に関するルールを作成する。

### 【研修内容・方法】

- SGD:各テーブルテーマ(TI)に沿って「相談したい」「相談すべき」「相談を受けれる」職種と内容を考える。
- 横断紙に付箋に書いた内容を「医師」または「メディカルスタッフ」に別けて貼付
  - 各テーブルを15→10→10分毎に移動し各TIについて意見を出し合う (TI:A栄養、B口腔ケア、C介護ケア)
  - SGD:情報整理(行動変容クラス別)保険薬局で対応すべきこと
  - 多職種により研修会や情報共有を実施し対応方法を検討すべき事
  - マニュアル、ルールを作成し相談窓口を明確にすること
  - 保険薬局で対応すべきではない事発表

### 【結果】

- A:栄養(相談事例:カロリー制限について栄養指導の依頼。検査値が良くない方へ食事制限の必要な栄養指導の依頼。)
- 生活習慣病に関する栄養指導は実施する必要がある。栄養剤(ラコール、エンシュア)や栄養補助食品についても相談に対応すべき。
  - 食品成分表のカロリー表の見方や指導ポイント、また、栄養に関する生活指導や運動療法については多職種間で情報共有を行う事は必要。
  - カロリー計算や栄養評価は栄養士が行う事であり相談窓口(保健センター、保健所)と繋ぎ連携をとる。
  - なし。



第1回情報共有研修会の様子

## 第2回 情報共有研修会 栄養士と保健師の立場から考える嚥下困難者における栄養指導

出席者 歯科医師1名、看護師1名、ケアマネジャー2名、栄養士3名、薬剤師10名、保健師2名、行政(亀岡市役所高齢福祉課)1名 / 合計20名

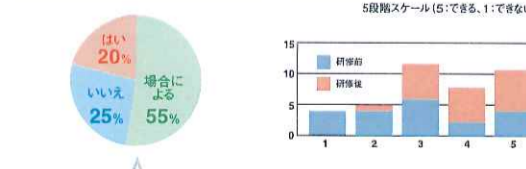
### 【内容】

- 保健師  
・主な活動内容:乳幼児検診、育児相談、健康相談、併発活動、家庭訪問活動、啓発活動など
- ・主な役割:疾病の早期発見と予防的介入、受診を促す声かけ、地域関係者への働きかけ
- ・保健師の強み:看護の知識(バイタルチェックなど)
- 栄養士  
・栄養士しかできない仕事=栄養士に任せてほしい仕事
- ・チームアセスメントからの栄養計画作成と実施(Plan)(Do)(Check)(Act)
- ・万人向けの各疾病別栄養食事パンフレットをオーダーメイド(献立)に変える仕事
- ・オーダーメイド(献立)の食品や量から食事に変える仕事



資料:京都訪問栄養士ネット

- Q1 栄養指導の対応は独自(各所属施設)で行うべきだと思いますか?
- Q2 栄養士・保健師との連携はとれると思いますか?



Q1への具体的な意見  
・在宅支援チームで対応すべきで、限定されるべきではない  
・場合により専門的指導が必要  
・連携で行う方が実際の生活の中で対応ができる  
・調理法など細かい内容については対応しきれないため協力が必要  
・知識不足、経験不足のものが必要以上に説明すべきでない など



第2回情報共有研修会の様子

## 第3回 情報共有研修会 歯科衛生士と薬剤師の立場から考える口腔ケアにおける乾燥の原因と対策

出席者 歯科医師1名、歯科衛生士4名、看護師5名、栄養士1名、ヘルパー1名、ケアマネジャー1名、薬剤師10名、保健師2名、行政(亀岡市役所高齢福祉課)1名、その他1名 / 合計27名

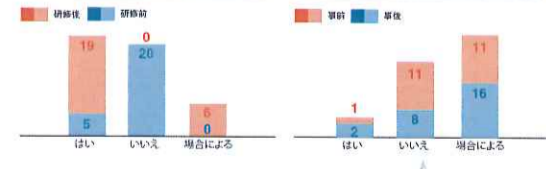
### 【内容】

- 薬剤師  
・口渇の原因となる薬の推定:抗コリン作用を有する薬は4000種類以上存在する
- ・口腔内疾患のチェック(例)ステロイド経嚥による口腔内カンジダ等の口腔内疾患の有無をチェック
- ・医師への疑義紹介:患者本人に不利益と判断された処方に関して医師へ直接処方変更の可否を提案
- 歯科衛生士  
・虚空ケアの重要性について説明:口腔内を清潔に保つ、口臭予防、肺炎予防、口腔機能の改善 など
- ・具体的な活動:歯ブラシ等を用いた口腔清掃、口腔機能訓練、唾液腺のマッサージ、口腔乾燥ケア
- ・口腔サポートセンター:障害や病気により歯科医院に通院が困難な方に訪問可能な歯科医師を紹介(例)噛めない、歯が痛い、口臭が気になる、入れ歯が合わない など



資料:京都府歯科衛生士会

- Q1 歯科衛生士・薬剤師との連携はとれると思いますか?
- Q2 口腔ケアの対応は独自(各所属施設)で行うべきだと思いますか?



第3回情報共有研修会の様子

Q2への具体的な意見  
・専門性のある事なので歯科専門の力が不可欠  
・患者への適切な対応は専門職に任せるべき  
・患者ごとのプランに応じた指導やケアをすべき。独自に行うのは困難。

## 今後の展開

2025年の高齢化社会を迎えるにあたり亀岡市や多職種と連携し「経済的かつ効率的」な地域医療の姿が必要と考える。その為に「顔の見える関係」から情報のプラットフォーム化を行いお互いの専門性を理解し協力する取り組みを継続する必要がある。保険薬局は「かかりつけ薬局」として、地域一医療、地域一介護の「繋ぐ」役割の一端に貢献していきたいと考える。

## V. ポケットガイドマニュアルの作成

各専門職の専門性と相談窓口についてまとめたものを資料として作成する。各職種が持ち歩き患者相談時にマニュアルを確認するツールとして活用する。



連携した市町村、団体とその内容 亀岡医師会、亀岡市、訪問看護ステーション協議会、亀岡歯科医師会、亀岡市地域包括支援センター、亀岡薬剤師会、一般市民の各団体の皆様 ご協力ありがとうございました。